ローズバーグ日本人收容所時事局
四月二三日 金曜日 第二〇五號
ローズバーグ TIMES
apru 23
Lords Burg

米國飛行士の極刑に

全米市民復讐を誓ふ
但対戰時捕虜に非ず

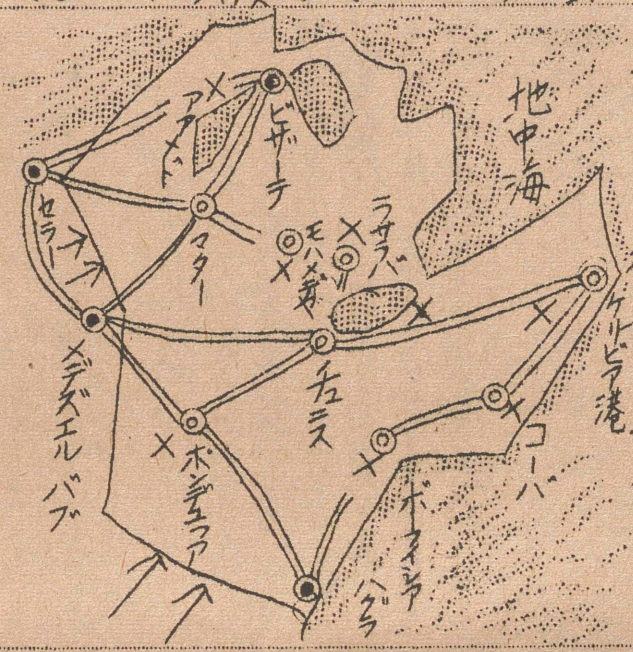
一年前東京空襲に使用せし米國陸軍爆撃機は合計十六台であるが一台毎に五百斤彈四個を搭載して居たから十六噸を各都市に投下したものだと雖も昨年當日ローソン天佐カネチカットのワッソン天佐等が發表した概報の如く日本軍部が米國飛行士等八名を極刑に處したことは全米市民の痛く憤激する所となり必ず日本を再度空襲して復讐せんと誓つたが日本兵戰時捕虜の上に影響甚せず發表した日本は又米國の空襲あるべきを期待し決死隊既に組織されて居て唯の機と雖も日本を主に投彈せしめずと堅張してゐるといふ。

人造ゴムを絞る批難

ガソリン欠乏し始む

人造ゴム製造に要するガソリンの費途多量に上り飛行機用に不足を告げんとする重大事件が起つたと陸軍次官パターソンが今朝發表した比の發表はゼファースに対する戰時情報部長デビースの批難と共に人造ゴム問題の將来に而してゼファースに対しての影響甚大である聯合通信社で騒ぎ立てゐる。

聯合空軍の爆撃下のロムメル得意の方陣



演藝會評判記

樂屋覗きが崇つて昨夜もふらり櫻座へ忍んだ。黒平民の弐三番目多勢出度く舞ひ納めたはかりである。扨昨景山先生朗吟の前奏能弁前島剣士の眞剣とぴたり合致アコール再び南洲作傳ふる孤軍奮闘の熱演なり再吟詩の所望あり其儘剣舞の記錄破り乎

駐屯長座の新進問答中々凝つた大衆熱演術だ。最後の發送子大本營發表の讀込は蟬丈の珍列と共に當收容所の双幅であらう

忠臣蔵松の間風景は師直光る可惜若狭を塩谷判官と呼びかけたるは自錄に自然暗べて武蔵守散々の不覚也音声能く度胸よく伴奏出来たく。石崎先生は琴古流の許し十三弦に代る拵琴は他流都素の萬川さえであつたがあの難曲「残月」をよくもあれまで遣つて退けた業前「概評して何処迄清浦の熱演見事である。かづらも桜袋も前の俳優に引出物として持たせてやつたが其後の楽屋をあれまでに復活させた重衡面には三好宮野両先生の見えざる不断の努力がある。固より大方の後援はいはずもがな。

地獄への旅券携帯

案内役は日本が引受

同盟通信は軍法會議判決の米國飛行士八名は暴虐非人道なる米國式飛行兵の死刑は當然なる正義の表現法である無邪気なる無辜の非戰闘員及び殿傷者を目先して殺人的犯罪は極刑を以て制裁す米國人よ次期に日本空襲を試むる場合はワンウエーのチケットを持参すると共に地獄への旅券携帯を忘るゝ勿れ」

故南夫人追悼會

昨紙所報の故南岸枝夫人の追悼會は来る二十五日の日曜午後七時半より第十二中隊食堂にて執行〆これる。

大戦の勝利は…

脂肪の蓄にあり

我が國の現狀は戰爭に最も必要なグリスリンが欠乏せんとして居るグリスリンは最強の爆発力となり煙硝製作上缺ぐべからざるものである此グリスリンの原料は在来東洋から我國へ輸入したものであるが日本軍のため原産地を全部占領されたので我國は原料輸入の途を断れた然しグリスリンは戰爭遂行上益々多量の必要が迫って来た今日他國より輸入が断へた我國は絶体絶命國内に於て生産を待つ外ない茲に於て我國家は各家庭の主婦に向って大きな期待をかけねばならぬ即ち各主婦が日常の心懸けにより食物を調理する際脂肪を無意識に捨ず蓄へて世界ふと一ケ年最少限度に見積て九千カ斤のグリスリンの原料であるつまりを蓄へることが出来る省るに我陸軍は之の脂肪を在来迄閣にて捨てること一ケ年三億カ斤、海軍が千百四十カ斤を少くとも無駄にしたのであった誠に失態の限りである斯の如き事情の下にある我國家は此際全主婦の協力を得て其だ尨大な註文ではあるが今次の大戰を日露後の勝利に導かんとする主婦達の奮起を促し日常食物の料理に常り國家が必要欠ぐべからざるところのグリスリンの原料即ちラードを蓄へることを努力されたい此れが我國を勝利に導く唯一の方法であり主婦達に希ふところである

——ヘラルド紙——

野球リーグ戰開始

移動騒ぎに加へて樂多精鋭をサラ退の色を見せてるたが勿々更生新陣容を整備して創々リーグ戰を再開するに到った左記のスケヂュールにより明後日曜日(廿五日)より第一回戰の火蓋を切ること、なつたので各中隊の熱烈なる應援を期待する。

二十五日午前八時半より
五中隊 対 十中隊(十中隊球場)
日午後一時半より
六中隊 対 九中隊(九中隊球場)
同 日午後五時半より
十中隊 対 十二中隊(九中隊球場)

野球聯盟

待事遠い人造ゴムタイヤの出現

米國の自動車二千七百万台の所有者から百万本の思ひで待ち焦れられて居たう人造ゴムは明年度下半期入ると製造所から美麗堅固なタイヤとなって自働車のタイヤまで融通が付かぬところへ持つて行く算段と判り甚だ待遠しいと先きの喜びが不満失望の声となって居るようである。

朗通渡俳壇 「春雨」

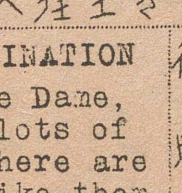
春雨の消え行く原や書の月　無涯
性の神祠れる嶺や春の雨　月樵
春雨や柵より見たる北の山　一甫
うたゝねの夢断ち切るや春の雨　許奈
春雨や雲雲を呼ぶ嶺續き　青柳
春雨の空を仰げば乱れ雲　風人
春雨や名も用ありと検閲所　牧人
春雨は薄れ銀翼あぶかに　よし繪
春雨や裸の山はメキシコよ　紅雨
春雨やロッキー山のあたりより　芳雨
春雨の遠嶋を方へ荷馬車行く　照洋

144 THE POWER OF IMAGINATION

On the towers of Notre Dame, of Paris, you'll find lots of monsters, among which there are some winged ones. We like them, especially the one that looks like us. Quite natural, isn't it.

The angels have wings. So do the devils. And vampires, too. We don't like that kind of wings, tho. They don't look so cheerful, do they?

The human being aspired to get a pair of wings. To fly like a bird was the long-cherished desire of the mankind. And we've realized it in the form an airplane. What did it? A fairy-tale did it. Imagination. A wonderful thing. The Creator did not give us wings. He gave us, however, that gift of imagination.



パリのノートルダムの塔の上にはいろんな怪物がみるがその中に翼のある奴も若干ある、が、その翼はどうも陰気だ、人類は翼にあこがれた、鳥のやうに飛びたいのが宿望だったものだ、それは飛行機によって實現された、何がさうしたか、お伽噺だ、人間の想像力だ！驚くべきものだ、造物主は翼の代りに人間に與へなかつた、それに違ひない。

天使にも悪魔にも翼がある、吸血蝙蝠にもある、が、その翼はどうも陰気だ、人類は翼に